

学習内容報告書 フォーマット

学校名	那智勝浦町立下里小学校
授業者	中村 悟 (第3学年)、榎本 昭徳 (第4学年)

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「くじらの博物館へ行こう！」

1-2. 学年

第3学年、第4学年

1-3. 教科 (単元を実施する教科を全てお書きください)

海の時間、理科、国語科、学活

1-4. 単元の概要

隣接する太地町にある「くじらの博物館」を訪問し、鯨のからだのつくりや生態について学芸員から説明を受けた後、実際に生体に触れ学習する。体験学習に当たっては、ワークシートを使用して事前学習を行うことで、くじらについての予備知識を培っておく。また、骨格標本の観察、エサやり体験、ふれあい体験、水槽内の動きの観察を通して総合的に学習を進めていく。

理科の単元「ヒトの体のつくりと運動」として生き物の体のつくりとしてヒトとくじらの共通点や相違点など、科学的な視点から観察する経験を積む。国語科では、新聞作りの題材として扱い、見てきたこと気がついたことを児童自身の感性で豊かに表現できるよう指導する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

海の生き物に関わる施設の訪問・見学を通して、海洋生物やそれに関わる人々に関心を持ち、主体的にまとめ豊かに表現することを目標とする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

姿形は異なるが鯨がヒトと同じほ乳類であることを理解し、生物の多様性に気づく。実際に生物に触れることで子供たちならではの視点で鯨を観察し、気づいたことを豊かに表現する力を育みたい。

1-7. 単元の展開（全 時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>鯨についての基礎的な知識の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使って「くじら」について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料と「くじらの博物館」ワークシート「くじたんミニ1」を利用して鯨の基礎知識を指導する。 学習後、児童のワークシートを確認する。
4	<p>「くじらの博物館」での体験学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 学芸員より鯨の生態や特徴についての説明を受ける。 学芸員の解説を聞きながら骨格標本を見学する。記録ノートに「わかったこと」を記録する。 観察プールでイルカの運動を観察する。 「エサやり体験」でイルカと鯨の摂食行動を観察する。 「イルカにタッチ」で生体に触れ実際の触感、大きさを実感する 	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の利用について安全上の諸注意を行う。 児童が「聞き取りノート」にレクチャーでわかったことを適切に書いているか、適宜指導を行う。 教師は、後の学習で使う資料とするため鯨の生態や児童の学習のようすをビデオカメラ等で記録する。
3	<p>「新聞を作ろう」【4年生国語3h】</p> <ul style="list-style-type: none"> わかったことをまとめて、わかりやすく簡潔な文章を書く。 見出しや文章のわかりやすさに留意して新聞を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 見出しや文章の書き方に工夫するようきめ細かに指導する。 図や写真を効果的に利用するよう指導する。
2	<p>「ほうこくするぶんしょうを書こう」 【第3学年 国語2h】</p> <p>わかったことをまとめて、的確に相手に伝わる文章を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「何を伝えたいのか。」「相手にわかるように書けたか。」文章を目的に合った表現になるよう指導する。
2	<p>「はがき新聞にまとめよう」 【第3学年 学活2h】</p> <p>調べて分かったことの伝えたいことをはがき新聞にまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「はがき」の大きさという制約の中で、優先することは何かきちんと考えて書くよう指導する。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

「くじらの博物館」の学芸員さんから鯨の体のつくりや生態を詳しく聞いたり、実際に鯨やイルカを観察したりして人の体のつくりと比較する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none">・事前学習を想起しながら、鯨の生態やからだのつくりについて学芸員さんからレクチャーを受ける。・学芸員さんの話から「わかったこと」「驚いたこと」などをノートに記録する。・学芸員さんの案内で、記録をとりながら館内の標本を見学する。・海洋水族館でイルカの泳ぎ方やからだの各部の特徴などを観察する。・バンドウイルカとオキゴンドウにエサを与え、摂食するときの様子を観察する。・ウェーダーをはいて水中に入りバンドウイルカの皮膚に触れる。・イルカがえさを食べる時の様子や皮膚の感触など、気がついたことを友達と話し合いながらノートに記録する。	<ul style="list-style-type: none">博物館内での安全に関する諸注意を行う。・学芸員さんのレクチャーに対して事前学習時のことを想起するよう支援を行う。・すべての児童に、学芸員さんの話が聞こえるか注意し必要に応じて、補足説明を行う。・ビデオカメラ、デジタルカメラで映像を記録して、資料を作成する。・児童の安全確認を行う。

3. 今回の活動の自己評価

子どもたちが、図鑑などの資料から得られる情報と実際に生体を見たり触れたりしたときで大きなギャップを感じることから、体験することから得られる情報量の多さに気づかされた。イルカや鯨はテレビ等で見ただけの経験はあるが、実際に間近で触れる経験がないことからすべての子どもたちがとても高い関心を示して学習プログラムに参加していた。

また、国語科と学活での表現活動では子どもたち自身が感動すると同時にその感動を他者に伝えたいという気持ちが高まり、意欲的に学習に取り組んでいた。また、鯨の生態やからだの特徴についての学習のみならず、捕鯨という地域の歴史と密接に関わりのある産業についても、その一端を知る機会となったことは有意義であった。

4. 今後の課題

学芸員との連携は軌道に乗り、学習活動も計画的通りに行えるようになった。くじらの博物館は、ここ数年間で学芸員を中心として学校との学習プログラムを発展させてきている。今後はその学習プログラムを本校でも取り入れながら、本校の海洋教育を発展させてゆきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。